

日本語教員養成課程修了生の学び

— 受容と変容 (2) —

中 川 良 雄

〈Summary〉

In Japanese Teacher Training Course of University, we exhaust many graduates every year. However, all the graduates do not take a Japanese teacher and get the social various jobs. Various subjects are learned related to Japanese language, education and Japanese culture in the Course, but do the graduates utilize enough knowledge and skills in their present jobs in their social service?

We made an interview research for graduates, and analyzed the collected data using M-GTA (Modified Grounded Theory Approach).

The result shows that ① The graduates have been hoping to become Japanese Teachers since their high school years. And they repeat an effort. ② Occupational consciousness is considerably strong in comparison with other specialty. ③ They acquire, in the Course, “Communicative Competence” “Human Power” “Japanese Expression Ability”, which are helpful for their occupational life or for their social life, even if they do not take a position of Japanese Teacher.

It is hoped that the graduates play an active part in the society as a global talented person, utilizing fully their competence or ability acquired in the Course.

We have already discussed in the previous paper how the graduates obtained their views of Japanese education when they started learning. We are going to discuss in this paper how the graduates deepen their knowledge on Japanese education and how they grow with their knowledge and experience or how they utilize their ability in their job field after graduation from the Course.

は じ め に

大学の日本語教員養成課程修了生の大半が日本語教員に就くわけではなく、他の職域へと就いていくことは、すでに何度も触れてきた（中川 2015a, b, 2016a, b 等）。修了生は、日本語教員に就かずとも、社会の様々な職域で、課程での学びを最大限に活かして社会貢献を果たし、グローバル人材として活躍していくことが期待されている（中川 2016b）。また異文化コミュニケーション能力や対人コミュニケーション能力、日本語教授に関する十分な見識を備えた「在野の」日本語教員として、グローバル社会の実現に寄与していくことが目指される。

では修了生は、課程（大学）入学時においては、どのような思いで課程を選択し、課程で何を

学んだ（受容）のか。また課程での学びを通していかに変容していくのか。

当初日本語教員に就くことを志望し、課程を選択したにもかかわらず、日本語教員に就かないのはなぜか、また日本語教員に就かずとも、他の進路を選択したとして、課程での学びがそれぞれの職域で活かされているのか。

前稿（中川 2016cc）では、日本語教員養成課程修了生の課程入学時の思いについて扱った。本稿では、課程修了後、課程で身に付けた資質や能力をもとに、修了生がいかに変容を遂げていくかについて、前稿同様、修了生にインタビュー調査を実施し、M-GTA（Modified Grounded Theory Approach）を用いて分析する。インタビュー内容を概念化することによって、課程での学びの構造を考えてみたい。

本稿は、平成 25 年度～平成 27 年度科学研究費補助金基盤研究（C）「日本語教員養成課程修了生の社会貢献とグローバル人材育成に関する構造化研究／（研究代表者：中川良雄，課題番号：25370607）の研究成果の一部公表である。

1 日本語教員養成課程修了生の学びの受容

前稿（中川 2016cc）で考察した、日本語教員養成課程修了生の学びの概念は次のようであった。

表 1 日本語教員養成課程修了生の学びの受容

| 学びの受容 | カテゴリー | 概 念 |
|-------|-------|------------|
| | 職業観 | 日本語教員 |
| | | 国際性 |
| | | 教員志望 |
| | | 道が険しい |
| | | 努力 |
| | | 全てが役に立っている |
| | | 愛着 |

日本語教員養成課程修了生が、入学当初より日本語教育にいかなる思いを込めていたか、前稿では、上記概念を次のように読み取った。

日本語教員養成課程修了生の多くは、入学時より日本語教員を志望し、入学後も勉学に勤しんでいると言える。日本語教員を志望したきっかけはどうか、他の専攻に比してかなり職業意識が強い。

入学前に日本語教育にどんなイメージを抱いていたかは知るよしもないが、多くは入学前の期

待に反することなく、学びを受容して深めていく。ある場合には、やや期待に反することはあっても、当初の目標を見失うことはない。

課程での学びを深めていくうちに、ますます日本語教育への思いを高めていく場合もあれば、他の分野への魅力を発見する場合があるかもしれないが、それはそれで日本語教育がきっかけとなって、新たな自分が発見できたのであればいっこうにかまわない。要は、日本語教員養成課程での学びが、人間性の獲得と成長に寄与できるのであれば、糧の使命は果たしていると言えるであろう。

こうした思いは、課程での学びを深めていくうちに変化していくのか、課程の修了生がいかに変容し、人間的成長を遂げていくのかを考えることが本稿での課題となる。

2 インタビューの分析——終了後——

入学当初より「日本語教員になりたい」という強い意志を持ち続け、理想と現実とのギャップに悩まされながらも、初心貫徹し、日本語教員に就いた者もいれば、日本語教員の道を断念した者もある。

では課程での学びは、課程修了後にどのような形で結実したのだろうか。

概念⑨：学習ストラテジー（データ番号 C ①）

調査協力者 B は、インドネシアでの日本語教育に当たった。赴任前にインドネシア語を勉強する際、自分が日本語を教えている方法でインドネシア語を勉強すれば、うまく行くのではないかと、「学習ストラテジー」の獲得を実感する。つまり日本語教育能力の受容と獲得が新たな世界観の形成に変容を遂げる例である。

概念⑩：外国人とのコミュニケーション（データ番号 C ②）

外国人と結婚した調査協力者 G は、同じ境遇の外国人へのアドバイザーとして、日本語教育が役立つと語る。つまり、先輩としてよりも、フォリナートークの技法を含めた、「他者配慮」の姿勢が養われたのではないかと考えられる。

調査協力者 I は、課程修了後、日本語学校職員として多くの留学生と接してきた。そこで役立っているのは、いかに効果的に伝えるかという技法である。ただ一方的に伝えるのではなく、相手に合わせた伝え方があるはずだと、自分自身の変容ぶりを語る。この「対人コミュニケーション」の技法は、職業上だけではなく、日常生活においても重要である。

概念⑪：対人関係能力（データ番号 C ③）

調査協力者 F は、日本語教育経験を通じて、外国人とのコミュニケーションがうまくなったのではないかと語る。最後まで言わないという日本語の論理から脱して、最後まではっきり言う

ことによって、分かりやすい話し方ができるようになったと語る。日本語教育の賜物である。

調査協力者 H は、大学時代のオランダ留学、現在の日本語教員の経験を通じて、偏見をなくす姿勢が養われたと語る。その姿勢や能力は、決して目に見えて獲得されたと実感できるものではないが、知らず知らずのうちに自分自身の変容に気付くものであろう。

調査協力者 I は、例えば経済学などのほかの専攻を選んでいた場合とは異なり、日本語教育を学ぶことにより、「対人関係能力」の身に付いているだろうことを振り返る。

「対人関係能力」の獲得とは、コミュニケーション能力が身に付いたと考えてよい。

概念⑫：異文化受容能力（データ番号 C ④）

日本語教員養成課程で獲得される能力として、「異文化受容能力」のあることは、前稿でも述べた通りである。

課程では、外国人とともに学ぶ、外国へ行くのが当たり前であるなどの多言語・多文化環境が自ずと「異文化受容能力」を身に付けさせる（調査協力者 K）。

多言語・多文化の中で学んだ経験は、世界へ目を向け、関心を向ける目を養わせてくれる（調査協力者 P）。

課程では外国人とともに学んだため、その経験から平和貢献が果たせる自分への変容が期待される。

概念⑬：すべてが役に立っている（データ番号 C ⑤）

課程での学びすべてに満足している（調査協力者 L）と語る修了生もいるが、修了生の意見は、課程のカリキュラムを考える上で極めて重要である。課程のカリキュラムは、「コミュニケーション」を教育内容の中核に据え、「地域・文化・社会」「教育」「言語」がそれを取り巻くよう案配されている（中川 2016b）が、すべての領域がコミュニケーション能力の獲得に必要であるという考えを示している。すなわち課程の修了生には、コミュニケーション能力が受容され、それを発揮するよう変容を遂げていると考えてよい。

概念⑭：アドバイス（データ番号 C ⑥）

海外での日本語教育経験は、今後当地へ赴きたい人たちへのアドバイザーとして情報発信源となる（調査協力者 O）。

つまり情報発信者への変容である。

概念⑮：アイデンティティ（データ番号 C ⑦）

調査協力者 Q は、学生時代にオランダへ留学し、修了後メキシコで日本語教師を経験した。そうした経験が自分自身を語るアイデンティティになっていると考える。

つまり様々な経験（受容）が新たな自分へと変容させるという考えである。

概念⑯：愛着（データ番号 C ⑧）

上記調査協力者 Q 同様、日本語教育が自分自身を形成するという考えから、ボランティアとして日本語教育とかかわっていききたいとの考えが生まれる（調査協力者 R）。日本語教育には、それだけの魅力があると言えるが、課程修了後、日本語教員に就かずとも、在野の日本語教育人として活躍できる十分な能力を備えていると考えられる。

概念⑰：職場で日本語教育（データ番号 C ⑨）

これまでに述べてきたような、課程の修了生が課程で身に付けた資質や能力は、様々な職域で活かされる。今後ますます求められるであろう外国人対応や「話す」「書く」能力提供として、社会に活かされるはずである（調査協力者 J）。首を傾げざるを得ない日本語表現が横行している昨今だが、様々な日本語場面で課程の修了生の活躍が期待される。

概念⑱：すべてが役に立っている（データ番号 C ⑩）

日本語教員養成課程の修了生には、日本語表現能力が獲得されたものと思われる（調査協力者 T）。豊かな表現能力を身に付け、普段の言葉遣いに関心を持つことは、美しいメッセージの発信者として自分自身を変貌させることであり、日本語教員養成課程修了生にもっとも期待される能力であると考えられる。

表 2 日本語教員養成課程修了生の学びの概念

| | | | | |
|-----|---|-----|----------------|---------------------|
| 修了後 | ① | C ① | 学習ストラテジー | 学習者の立場から語学学習のコツをつかむ |
| | ② | C ② | 外国人とのコミュニケーション | 課程では、外国人といっしょに学習する |
| | ③ | C ③ | 対人関係能力 | 対人コミュニケーション能力 |
| | ④ | C ④ | 異文化受容能力 | 異文化コミュニケーション能力の育成 |
| | ⑤ | C ⑤ | 全てが役に立っている | 課程のカリキュラムが充実している |
| | ⑥ | C ⑥ | アドバイス | 後進の指導に当たる |
| | ⑦ | C ⑦ | アイデンティティ | 日本語教育経験がアイデンティティとなる |
| | ⑧ | C ⑧ | 愛着 | ボランティアでも日本語を教えたい |
| | ⑨ | C ⑨ | 職場で日本語指導 | 日本語力が身に付いている |
| | ⑩ | C ⑩ | 日本語表現能力 | 豊かな日本語表現能力が身に付いている |

3 日本語教員養成課程修了生の学びの変容

前稿及び本稿より、日本語教員養成課程修了生の学びの概念をまとめると、次のようになる。

表3 日本語教員養成課程修了生の学びの概念

| 学びの 受容と 変容 | カテゴリー | 概 念 |
|------------------|-----------|----------------|
| | 職業観 | 日本語教員 |
| | | 国際性 |
| | | 教員志望 |
| | | 道が険しい |
| | | 努力 |
| | | 全てが役に立っている |
| | | 愛着 |
| | 言語学習館 | 学習ストラテジー |
| | コミュニケーション | 外国人とのコミュニケーション |
| | | 対人関係能力 |
| | | 異文化受容能力 |
| | 人間性 | アドバイス |
| | | アイデンティティ |
| | 日本語能力 | 職場で日本語指導 |
| | | 日本語表現能力 |

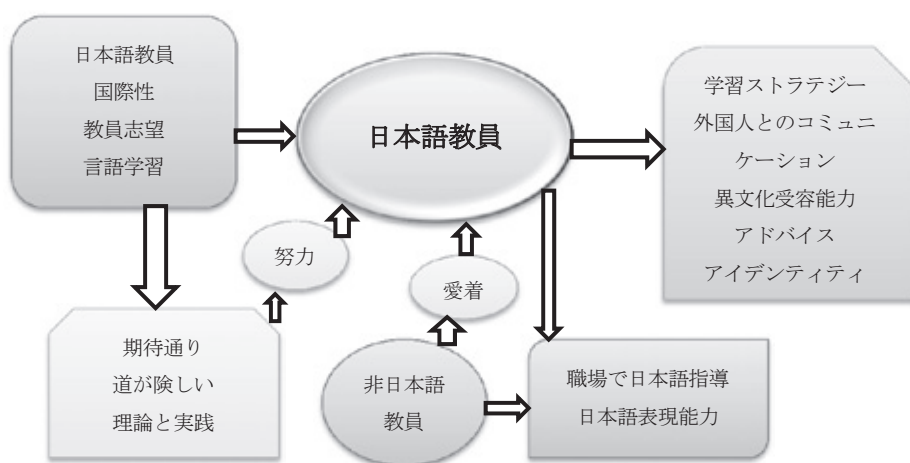
お わ り に

日本語教員養成課程修了生の多くは、入学時より日本語教員を志望し、入学後も勉学に勤しんでいると言える。日本語教員を志望したきっかけはどうかであれ、他の専攻に比してかなり職業意識が強い。

入学前に日本語教育にどんなイメージを抱いていたかは知るよしもないが、多くは入学前の期待に反することなく、学びを受容して深めていく。ある場合には、やや期待に反することはあっても、当初の目標を見失うことはない。

修了後、日本語教員に就かずとも、課程で獲得された資質や能力は、本人は自覚していなくても、目に見えざる部分で発揮され、「人間性」「コミュニケーション能力」「日本語能力」などとして発動される。また修了後すぐ日本語教員に就かなくても、近い未来において、日本語教育の見解は、社会に還元され、グローバル人材として活躍できる舞台が広がってくるはずである。

日本語教員養成課程修了生には、日本語教育経験をアイデンティティとして、さらに自らの能力に磨きをかけ、社会で活躍できる人材と変容していくことが期待されている。



参考文献

- 門倉正美 (2011) 「日本語教育の社会貢献とは？」
- 木下康仁 (2003a) 『グラウンデッド・セオリー・アプローチ 質的実証研究の再生』弘文堂。
- (2003b) 『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践 質的研究への誘い』弘文堂。
- (2007a) 『ライブ講義 M-GYA 実践的質的研究法 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチのすべて』弘文堂。
- (2007b) 「グラウンデッド・セオリー・アプローチ (M-GTA) の分析技法」『富山大学看護学会誌』第 6 巻 2 号, 富山大学, pp. 1-10.
- 戈木グレイグセル滋子 (2000 『グラウンデッド・セオリー・アプローチ』新曜社。
- (2008) 『実践グラウンデッド・セオリー・アプローチ』新曜社。
- 鈴木寿子 (2011) 「『日本語教師にならない人』にとっても有益な日本語教師養成はどうあるべきか — 開放的教師養成の一考察 —」『リテラシーズ』8, くろしお出版, pp.30-38.
- (2012) 「共生社会における日本語教師養成のための一考察 — 言語生態学的内省モデルの提案 —」『人文科学研究』No. 8, pp. 15-26.
- 中川良雄 (2007) 「日本語教員が考える日本語コミュニケーション能力 — 大学の日本語教員の場合 —」『研究論叢』京都外国語大学, pp. 158-174.
- (2009) 「『求められる日本語教員に日本語教員養成課程はどう応えるか』に関する総合的研究」(平成 18 年度～平成 20 年度科学研究費補助金基盤研究 (B)) (課題番号: 18320084, 研究代表者: 中川良雄) 研究成果報告書)。
- (2013) 「日本語教員養成課程修了生の日本語教育の受容と変容」『研究論叢』第 80 号, 京都外国語大学, pp. 151-162。
- (2015a) 「日本語教員養成課程修了生は, グローバル人材になりうるか」『中国日語教学研究会文集』第 11 号, 大連理工大学出版社, pp. 219-224.
- (2015b) 「日本語教員養成課程修了生の学び: コミュニケーション — M-GTA による分析 —」『研究論叢』第 85 号, 京都外国語大学, pp. 191-203.
- (2016a) 「日本語教員養成課程修了生の社会貢献」『研究論叢』第 86 号, 京都外国語大学, pp. 121-134.

- (2016b) 「日本語教員養成課程修了生の社会貢献とグローバル人材育成に関する構造化研究／平成 25 年度～平成 27 年度科学研究費補助金基盤研究 (C)」 (研究代表者：中川良雄, 課題番号：25370607 研究成果報告書), pp.1-88.
- (2016c) 「日本語教員養成課程修了生の学び — 受容と変容 (1) —」 『研究論叢』 第 86 号, 京都外国語大学, pp. 21-40.
- 文化庁・日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議 (2000) 『日本語教育のための教員養成について』。
- 羽入佐和子「大学の『第三の使命』としての社会貢献」 (<http://www.zam.go.jp/pdf/00000335.pdf#search=%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E3%81%AE%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E8%B2%A2%E7%8C%AE>) (2015 年 8 月 27 日)
- 文部省学術国際局 (1985) 「日本語教員の養成等について」 文学教 156 号。
- (2005) 「我が国の口頭教育の将来像」 〈中央教育審議会 答申〉 (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1335581.htm)) (2015 年 8 月 2)

【付 分析ワークシート】

| | |
|------------------|---|
| データ番号 | C ① |
| 概念名 | 学習ストラテジー |
| 定 義 | 学習者の立場から語学学習のコツをつかむ |
| バリエーション (具体例) | <p>調査協力者：私，インドネシアに行くに当たって，インドネシア語を勉強したんですけど，日本語学科で日本語の教え方を学んで，学習者の立場を考えて，授業を作るってことを考えてましたけど，インドネシア語を学んでいるときは学習者になるんで，実際に学んでみたら，学習者の気持ちがよく分かったので，日本語で教えるように，自分が外国語学ぶときも，どのようにすれば学びやすいってことを考えていったということですかねえ。</p> <p>調査者：ストラテジー。</p> <p>調査協力者：ストラテジー，はいそうですね。日本語で教えたように，学習者にしてもらうように自分も，こう，やって行けば学びやすいと言うことがよく分かったので，日本語のその，日本語教育を学ぶ前，だから高校生のときは英語を勉強するのとか，外国語を勉強するのが苦手だったんですけど，日本語教員養成課程，まあそれ以上に，日本語教師になったってことが一番大きいんですけど，まあそうなるから，語学勉強している今のほうが，外国語を勉強しやすくなったなあ。</p> <p>調査者：コツがつかめた，そんな感じかな。</p> <p>調査協力者：コツがつかめた，はい。(調査協力者 B)</p> |
| 理論的メモ | <ul style="list-style-type: none"> 日本語教授法を学ぶことで，他の学習も容易になる。 |

| | |
|------------------|--|
| データ番号 | C② |
| 概念名 | 外国人とのコミュニケーション |
| 定義 | 課程では、外国人といっしょに学習する |
| バリエーション (具体例) | <p>調査者：もうひとつ質問がありました。学んだことが今後生活の中でどのように活かしてくると思いますか。</p> <p>調査協力者：うーん、学んだことが今後の生活で活かしてくる。えっと、そうですね、あの一、私夫中国人なので、彼のいろんな質問には、今でも日本語の質問とか、そういうのにはよく質問されたり、彼を通じて、周りの中国とかベトナムとか、日本語を話さない人たちの質問責めにはよく遭います。</p> <p>調査者：それにちゃんと答えられる調査協力者：はい。</p> <p>調査者：それに学んだことが役に立っている。</p> <p>調査協力者：すぐ思いつくのはそういうことですかね。お母さん同士とかでも、よそから来られて、中国人の妻とかで来られた、日本人の妻ですか、で来られた人とか、あの一、また全然別のタイとか、いろんな国の人とかで、一定の仲良くなれても、一段踏み込んでとかいうときに、あの一、なんかちょっと、お互いにどう付き合っているのか遠慮してしまうところがあったりするのを、中国の人は結構親しく話しかけてきてくれますね。そんな時にいろんな相談事とか聞いたりとか、日本ではどうなのかという話をきっかけ、糸口にはよく。</p> <p>調査者：そういうコミュニケーションがうまくなってるかもしれない。</p> <p>調査協力者：うまくなっているかわかりませんが、聞きやすいと思うんですけれど。</p> <p>調査者：そういうオーラが出てるんでしょうか。(調査協力者 G)</p> |
| | <p>調査者：そういった大学で身に付けたこと、あるいは今仕事をしていることで、知識とか経験とかいっぱいあると思うんですが、それが今後の生活の中でどのように活かされていくでしょうか。</p> <p>調査協力者：はい、えっと、大学を卒業して、えー、8年ぐらいずっと日本語学校で働いていて、あの一、学生がオール中国だったので、700人近い留学生と、中国からの留学生と接して、その中でいかに物事をスムーズに噛み砕き、彼らが生活しやすいように説明できるかとか、例えばビザの書類を書かせるに当たり、どうやって工夫をしたら、彼らが戸惑うことなく書けるのかとか、受験の資料も面倒見ましたし、そういう部分において、こう仕事をしやすいツールを作るであるとか、人にものを伝える時に、相手に合わせた伝え方をできるかとか、今はもう日本語教育に携わっていないですが、今の仕事でも役には立ってるなと思います。</p> <p>調査者：仕事面だけでなく、生活の場でもそうですね。近所の人とのコミュニケーションとか。</p> <p>調査協力者：そうですね。</p> <p>調査者：そういう場面でも。(調査協力者 I)</p> |
| 理論的メモ | <ul style="list-style-type: none"> 日本語による外国人とのコミュニケーション そのためには、テクニックが必要である。 |

| | |
|------------------|--|
| データ番号 | C③ |
| 概念名 | 対人関係能力 |
| 定義 | 対人コミュニケーション能力 |
| バリエーション (具体例) | <p>調査者：じゃ、最後の質問なんですけれど、課程で学んだことが今後の社会でどのように活かされていきますか。Fさん自身の社会生活の中で。</p> <p>調査協力者：うーん、そうですね。課程で学んだこと。</p> <p>調査者：日本語教員以外のことでも結構ですが。</p> <p>調査協力者：そうですね。</p> <p>調査者：例えば人との接し方とか。</p> <p>調査協力者：うーん、そうですね。課程で学んだことと実際に働き始めてから学んだことが混じりあっていて、難しいところもありますけれども、ひとつ言えるのは、説明をするというのが、うまくなったなと思います。</p> <p>調査者：それは教える時の説明。</p> <p>調査協力者：そうですね。</p> <p>調査者：その説明のしかたというのは、人に道を説明するとかいうのもいっしょでしょうかね。</p> <p>調査協力者：そうですね。</p> <p>調査者：というのは、話し方がうまくなった。分かりやす話し方ができるようになった。</p> <p>調査協力者：これも相手に確認をしたわけではないので、自己満足っていったらあれなんですけれど。外国人にとっては分かりやすいけれども、日本人に対して回りくどいかもしれない。最後まで言わない美徳を、もしかしたら言い過ぎている部分が自分自身あるのかもしれないので、そこはなかなか確認できないんですけれども、声の出し方が自分自身ちょっとずつ変わってきているというのを感じますね。(調査協力者F)</p> |
| | <p>調査者：大学で学んだこと、そして今の職業で学んだことが今後の生活の中にどのように活かされていくんでしょうか。</p> <p>調査協力者：そうですね。あの一、日本人と話すに当たっても、そうでない人と話すに当たっても、あまり変な先入観を持たないようにになりました。</p> <p>調査者：なるほどね。</p> <p>調査協力者：で、ちょっと違う考え方とか、それから食習慣とかでもそうなんですけど、いろんな話を聞いて、それにびっくりしたりだとかすることもすごく多いです、それにもうけっこう慣れてしまったんですけど、あの一、この仕事をそのうち辞めたりとかして、全然違う仕事をするようになっていても、たぶんいろんな人がいて、それにはそんなに驚いたりしないでしょうし、あまり垣根を作らないで生きていけるかなと思います。</p> <p>調査者：そういう能力というのは、それも知らず知らずのうちに身に付いているんじゃないかということですかね。だから日本語学科で学んだことっていうのは、目に見えて分かるものではない。英語がじょうずになったとか、どういうものじゃないけれども、やはりどこかで活かされているんですね。(調査協力者H)</p> |

| | |
|--------------------------|--|
| | <p>調査者：課程で、先ほどから言っているように、いろんなものを勉強したと思うんですけどね、身に付けた能力が今後の生活の中で活かされていくと思いますか。</p> <p>調査協力者：今後の生活の中で。その人とかかわるということがですか。</p> <p>調査者：そういうものも含めて。</p> <p>調査協力者：それは、人と人ということであれば、別に日本人同士でも同じことなので、そうですね、人との関わり方ということであれば、別に、はい、あの一、日本人しかいない社会で生きてきていたとしても活かされる。</p> <p>調査者：どういう風に生きてくるでしょうか。どういう能力が生きてくると思いますか。</p> <p>調査協力者：人間関係の構築だったでしょうか。</p> <p>調査者：なるほど。まあね、よく言われるように、学科で勉強することによって人付き合いがよくなったとかね。日本語教師という仕事を選ぶことによって、人に対する愛情というかね、おもてなしというかね、そういうものがいう意見もあるのですけれども、例えば経済学を勉強していたとか、理科系の科目を勉強していたのとはちょっと違ったものが身に付いたってことは考えます。(調査協力者 J)</p> |
| <p>バリエーション (具体例)</p> | <p>調査者：じゃあね、課程でいろんなことを勉強しましたが、その勉強したことが今後の生活の中でどのように活かされていくのでしょうか。</p> <p>調査協力者：今後の生活の中で。まあ、お客さんが、営業もしてるんですけど、全国各地にいて、話していて、この人はどこの人だなというのが分かったとか、それで話が広がるがあります。</p> <p>調査者：方言ですか。</p> <p>調査協力者：方言、はい。</p> <p>調査者：それが分かるようになった。</p> <p>調査協力者：その地域のことが分かったと、お客さんとの話も広がるじゃないですか。</p> <p>調査者：はい、はい。どこの出身ですか。</p> <p>調査協力者：はい。(調査協力者 M)</p> <p>調査協力者：それで日本へ帰ってからすぐお金を返しました。えっと、一瞬焦ったり、恥をかいたりしましたが、度胸の付いている自分を発見しました。これもコミュニケーション能力なんですか。</p> <p>調査者：危機回避能力でしょうかねえ。(調査協力者 A)</p> |
| <p>理論的メモ</p> | <ul style="list-style-type: none"> • つまりはコミュニケーション能力が身に付いた？ |

| | |
|------------------|--|
| データ番号 | C④ |
| 概念名 | 異文化受容能力 |
| 定義 | 異文化コミュニケーション能力の育成 |
| バリエーション (具体例) | <p>調査協力者：そうですね。基礎というか、何と言ったらいいんでしょう。でもさっきの異文化に対する感が堅田とかも、もちろん海外に行ってから初めて気持ちが開いたってのはありますけれど、環境、外国人がたくさんいたりだとか、外国に行くのが普通だという、多言語の学科であったことで、外国に行くのが普通だってイメージが付いてきましたし、日本語学科で4年間過ごして気が付いたこともありますけども、何でも受け入れやすい姿勢はできましたね。あとは、技術的なことは、現場に出なければ分からないことがいっぱいあったので、勉強したことは意味あると思いますけれど、それだけじゃなくて、現在まで現場で積んできたものを還元していくというのは重要だと思います。中国に3週間行ったとか、出版社でアルバイトさせてもらったとか、その時から人がいないとダメ段だなと思って。</p> <p>調査者：なるほどね。そういうキャラを持っていて、それを大学で活かされたと思うし、大学で学んだ学問もKさんに合っていたのかな。</p> <p>調査協力者：そうですね。日本語教育能力検定試験というのも、一つの目安となって、在学中に合格できたというのも、自分の中の大きなポイントだったなと思います。一生懸命勉強できるのは、大学生のころしかなかったので、いろいろ勉強して、先生方に質問に行けたりだとか、分からないこと聞いて、そういう環境があったのは、あの時に勉強しておいてよかったなと思います。(調査協力者K)</p> <p>調査者：では、最後の質問です。じゃあさっきも少し言いましたが、日本語教員養成課程で学んだことが、今後あなたの生活でどう活かされていくと思いますか。</p> <p>調査協力者：生活ですか？仕事じゃなくて？</p> <p>調査者：うん、生活です。</p> <p>調査協力者：はい、生活ですね。生活……？えーっと、日本語教員養成課程で学んだこと……。例えば、小さいことで言えば、日本語の乱れみたいなんだけど、ニュースとか聞いててもアナウンサーの人のね、今のなんか違うよねって思うこともあるし、そういうのも大学でそういう勉強しなかったら、意識しなかったこと。本とか読んでも。</p> <p>調査者：うんうん、なるほどね。</p> <p>調査橋梁者：もっと広く言えば、単純に海外への意識は、海外っていうか外とか。それから日本に来てる外国人とか。そういう人達への意識は強くなってるかな。</p> <p>調査者：それは意識するようになってるってこと。</p> <p>調査協力者：うん、例えば学生がいる国の出身国のニュースに目が向くようになるとか。今だったら、最近私はスウェーデンとかスリランカの学生とかちょこちょこもつようになったけど、たぶんそういう学生がいなかったら、さらっと流れてたようなニュースに目が……。</p> <p>調査者：ああ、あまり気にはとめなかった。</p> <p>調査協力者：うん、うん。</p> <p>調査者：その学生の国にまあ、ちょっとより興味というか関心が向いている？(調査協力者P)</p> |
| 理論的メモ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 課程では、外国人とともに学んだ。 ・ 差別や偏見をなくす態度・姿勢。 |

| | |
|------------------|--|
| データ番号 | C⑤ |
| 概念名 | 全てが役に立っている |
| 定 義 | 課程のカリキュラムが充実している |
| バリエーション (具体例) | <p>調査者：じゃ、大学で勉強したことが今後の生活の中でどのように活かされていくと思いますか。いろんなことを勉強しましたけどね。</p> <p>調査協力者：うーん、まあ今の仕事にすべて役に立っている。</p> <p>調査者：今は日本語教師ですからね。</p> <p>調査協力者：すべてと言えばすべてです。</p> <p>調査者：今の職業がすべてですね。大学で学んだことをフルに利用している。(調査協力者 L)</p> |
| 理論的メモ | <ul style="list-style-type: none"> • 課程のカリキュラムに満足している・ • 課程のカリキュラムがう充実している。 |

| | |
|------------------|--|
| データ番号 | C⑥ |
| 概念名 | アドバイス |
| 定 義 | 後進の指導に当たる |
| バリエーション (具体例) | <p>調査者：大学でいろんな学科目を学びましたよね。そしてメキシコで身に付けた知識などが、今後の生活の中でどのように活かされていくでしょうか。</p> <p>調査協力者：生活に関しては難しいですけど、仕事に関していえば、今後の人たちの教育に役立つのじゃないかと思います。とかあの、お金は少ないですけど、オプションを持っている日本国内の大学生とか海外に出たいけどっていう人たちにとっての、日本だけじゃなくて、なんかやっぱり国内志向がすごく強い気がして、日本人って結構いるんだよ、情報の発信になるのかなと思います。少しずつ日本人が外に出ていくことのきっかけならないかと思います。(調査協力者 O)</p> |
| 理論的メモ | <ul style="list-style-type: none"> • 様々な経験が役に立つ。 • 日本語教員としての経験。 |

| | |
|------------------|--|
| データ番号 | C ⑦ |
| 概念名 | アイデンティティ |
| 定 義 | 日本語教育経験がアイデンティティとなる |
| バリエーション (具体例) | <p>調査者：じゃあ Q さんが日本語教員養成課程で学んだことが、今後 Q さんの生活でどう活かされていくと思いますか。</p> <p>調査協力者：そうですね……。活かされる？</p> <p>調査者：活かされていくか。</p> <p>調査協力者 Q：そうですね、まああの、私はオランダにも行けて、その後でのメキシコでの日本語教育が今の私のアイデンティティになってると思うので、また日本語教育ができる環境になれば、学んだことを活かして頑張りたいと思います。(調査協力者 Q)</p> |
| 理論的メモ | <ul style="list-style-type: none"> 日本語教育経験は、社会のあらゆる領域で活かせる。 |

| | |
|------------------|--|
| データ番号 | C ⑧ |
| 概念名 | 愛着 |
| 定 義 | ボランティアでも日本語を教えたい |
| バリエーション (具体例) | <p>調査者：えー日本語教員養成課程で学んだことが、今後あなたの生活で、どう活かされていくと思いますか。</p> <p>調査協力者：そうですねーこれから私もーやっぱりもったいないですから、どうにかしていききたいとは思いますが、やっぱり、もう一度、機会があれば、またどこかでボランティアをしたいなって思ったりします。</p> <p>調査者：ボランティアですか。職業としては、考えていませんか。</p> <p>調査協力者：今のところはー、そうですねやっぱり、家庭があるので。(調査協力者 R)</p> |
| 理論的メモ | <ul style="list-style-type: none"> 課程修了後、どんな職業を選択しようとも、ボランティアで日本語が教えられる。 日本語教育にはそれだけの魅力がある。 |

| | |
|------------------|--|
| データ番号 | C ⑨ |
| 概念名 | 職場で日本語指導 |
| 定 義 | 日本語力が身に付いている |
| バリエーション (具体例) | <p>調査者：具体的に、役に立ったなと感じたことってありますか。経験ー</p> <p>調査協力者：そうーですねー。一応、今のたち、今の立場でいうとー、そのー、ま、部下ーの人が何人かいるんですけどー、ま、その人達ー、の指導もしているんですがー、その人達の作った文章だとかー、あの、メールだとかー、っていうの最終チェックは私がしてるんですけどー、ま、けっこう年齢が上の方もいらっしゃってー、けっこう日本語がまちがっていたりだとかー。</p> <p>調査者：へー。それはどのくらいですか。上の方はー</p> <p>調査協力者：それは、40代ーの方ー、とかもいらっしゃる、んですけどー、敬語とかー、たまにーそのー、直したりー。</p> <p>調査者：話すことですか。</p> <p>調査協力者：話す方もあるしー、書く方もあるしー、けっこうまちがった日本語を、使ってる人が意外と多くてー。でー、そういうときにー、私が最終的に直したりー、するんですけどー、ま、言語はどんどん変わっていくと思うんですけどー、そういったーことーで、うーん、役に立つのかなあとと思います。(調査協力者 S)</p> |
| 理論的メモ | 課程の修了生は、貴重なアドバイザーとなる。 |

| | |
|------------------|---|
| データ番号 | C ⑩ |
| 概念名 | 豊かな日本語表現能力が身に付いている |
| 定 義 | 日本語表現能力の獲得 |
| バリエーション (具体例) | <p>調査者：えー、日本語教員養成課程で学んだことが今後あなたの生活でどう活かされていくと考えるか、教えてください。</p> <p>調査協力者：学んだこと。うーん。ま、さっき言った対人関係であるとかー、あとはー、言葉に対して、自分が普段使っているような言葉に対して、こう、疑問を持ったり、この、関心を持ったり、ふふ、こういう使い方でもいいのかなとか、どういうふうに話せばこう、より伝わるのかなーとか、うーん、そうね、メッセージとして、ま、お店で言えば、こうどういう風に表現すればー自分のことが、よりーわかってもらえてー、てー、心を打つようなメッセージが送れるようになるのかなってーいうその言葉については、日本語っていうもので、すごく、いろいろ、深い、ねえ、すごく、たくさんの表現の仕方があるっていうのを、うーん、知ったのでー、うーん、ふふふ。そっかな、表現の仕方、として、うん、これから役に立つんじゃないかなと思います。(調査協力者 T)</p> |
| 理論的メモ | <ul style="list-style-type: none"> 日本語表現能力は、どこでも活かせる。 |

